

輸送性能維持・向上サービス

株式会社 エレベータ研究所

# サービスの概要

- 1. 実績レポート: 輸送性能の現状を毎月報告します。
- 2. 輸送性能の維持・向上: 輸送性能が所定水準以上になるように管理・調整します。具体的には、
  - ①各テナントの入居階について、交通量が偏って過大になるのを未然に防止するための助言を行います。
  - ②万一、交通量に偏りが生じた場合に、輸送性能向上のため、各群が分担する交通の調整を行います。

# 輸送性能の現状報告

- 1. 交通量
- 各階の時間帯毎行先階毎の平均乗客到着率
- 2. 輸送性能
  - (1)各階の時間帯毎行先階毎の平均待ち時間と長待ち確率
  - (2)時間帯毎各階毎の平均待ち時間と長待ち確率
  - (3)ビル全体の時間帯毎の平均待ち時間と長待ち確率

# サービス提供の前提条件

- 輸送性能が所定水準を満たしていない場合、原因は輸送能力が不足している場合が多く、輸送性能を改善するための輸送能力を改善する対策を確実に実施するには、複合群管理システムが適用されている必要があります。

# 輸送能力向上対策

- 輸送能力向上対策が必要になるのは、
- NUCLEUS(L+A方式)の場合はAシステムです。万一、Lシステムが走行性能劣化などにより一時的に輸送能力不足になった場合は、一部の乗客に「迂回移動」してもらって、分担する交通量を低減して輸送性能を改善します。Aシステムが輸送能力不足になった場合は、
  - (1)可変重量CW方式が採用されている場合は、アンバランス負荷が0にできますから、高速化によって輸送能力を向上できます。
  - (2)従来通りの固定CW方式の場合は、複合群管理システム特有の「迂回移動機能」を活用して、輸送性能が悪化しているセクタを分担している群の輸送能力を向上して(注)、輸送性能を改善します。(注)例えば、分担しているセクタの最上階に向かう乗客に以下の①②に示すような「迂回移動」をしてもらうことでRTTを短縮して輸送能力を向上します。①行先階と同一ゾーン内の上方の階を分担している群の中で分担している交通量が最小の群を利用して、行先階の同一ゾーン内の上方の階に一旦移動してもらいます②その階からLシステムを利用して同一ゾーン内の下方にある行先階に移動してもらいます